

本資料は、著作権法の保護対象物です。
著作権を侵害する一切の行為を禁じます。

当研究室の研究紹介

多胎児と単胎児の授乳状況の比較
出生人口に基づいたデータの分析から

大阪市立大学大学院看護学研究科
横山美江



☆研究報告 4

多胎児と単胎児の授乳状況の比較 出生人口に基づいたデータの分析から

はじめに

この項では、多胎児への授乳実態を単胎児の授乳実態との比較から分析した研究結果をご紹介します。この内容は、Twin research and human genetics という国際誌に 2006 年に掲載された論文の内容です。

単胎児と多胎児の授乳状況の比較

本研究は、出生人口に基づいたデータの分析から、多胎児と単胎児の授乳実態を比較・分析しました。対象者は、単胎児が 14962 名 (98.0%)、双子が 290 名 (1.9%)、三つ子が 9 名 (0.1%) です。

研究結果

出生体重は、単胎児が平均 3057.1g、双子が 2355.4g、三つ子が 1467.6g でした。図 1 に示しますように、授乳状況を分析しますと、単胎児、多胎児間で授乳状況に差が見られまして、単胎児では母乳のみによる授乳が 44.7%、混合栄養が 30.3%、人工栄養のみによる授乳が 25.0%であったのに対し、多胎児では母乳のみによる授乳が 4.1%、混合栄養が 43.4%、人工栄養のみによる授乳が 52.5%と、多胎児で人工栄養のみによる授乳が多くなっていました。

さらに、多胎児を双子と三つ子に分けて分析しますと、双子では母乳のみによる授乳が 4.2%、混合栄養が 42.7%、人工栄養のみによる授乳が 53.1%で、三つ子では母乳のみによる授乳が 0.0%、混合栄養が 33.3%、人工栄養のみによる授乳が 66.7%でした。

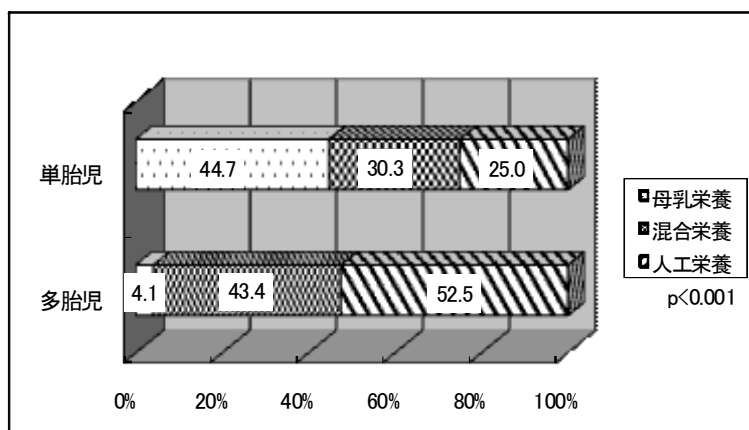


図 1 多胎児と単胎児の授乳実態の比較

次に、授乳状況に関連する要因を分析しますと、図 2 に示しますように、授乳状況は出生体重と関連が認められ、出生体重が小さいほど人工栄養のみにより授乳されている児の割合が高くなっていました。また、授乳状況は出生時の哺乳力とも関連が認められ(図 3)、

哺乳力が普通であった児に比べ、出生時に哺乳力の弱い児は人工栄養のみによる授乳の割合が高くなっていました。さらに、図4に示しますように、哺乳力の弱い児は双子ならびに三つ子で多くなっていました。

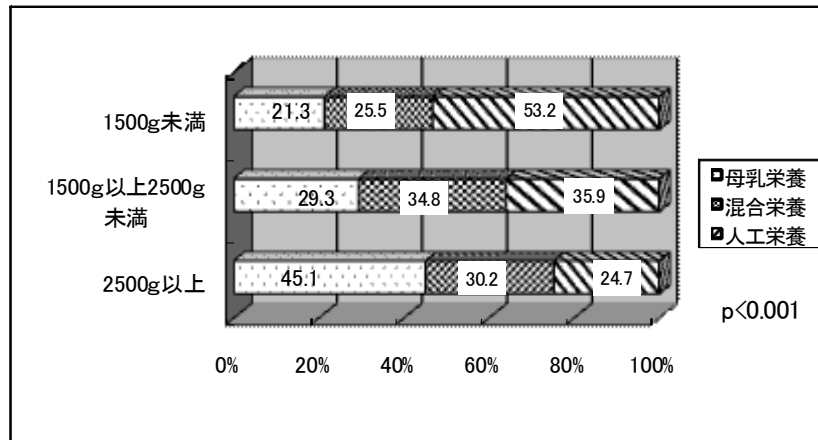


図2 出生体重と授乳状況

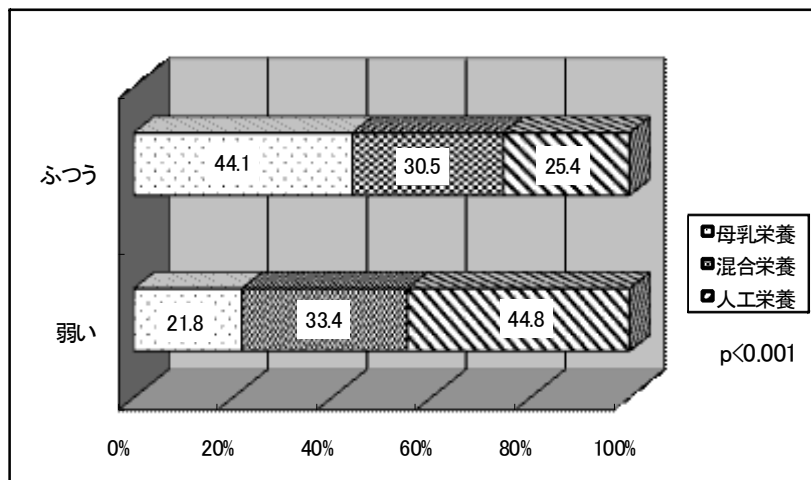


図3 出生時の哺乳力と授乳状況

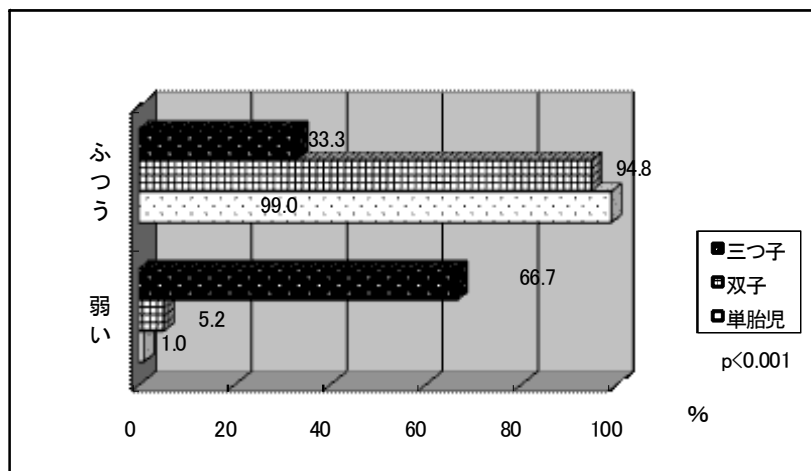
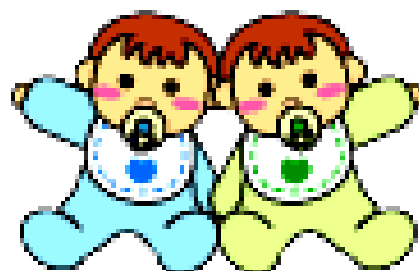


図4 単胎児・双子・三つ子の出生時の哺乳力

この他，保育器の使用状況，育児相談相手の有無，母親の体調ならびに母親の就労状況も授乳状況と関連が認められました。

以上の調査結果から，双子ならびに三つ子の授乳状況は，単胎児への授乳状況とは異なっており，単胎児では人工栄養のみによる授乳が 25.0%であったのに対し，双子では 53.1%，三つ子では 66.7%と単胎児に比べ人工栄養のみによる授乳率が高いことが明らかとなりました。これらの結果は，多胎児への授乳実態は単胎児への授乳実態とは異なり，多胎児への授乳指導をする際には多胎児における授乳実態をふまえた上で保健指導する必要があることを示しています。今後，多胎児のお母様方への効果的な授乳支援の方法も検討していきたく考えております。



本研究は，文部科学省科学研究費基盤研究Bの助成を受けて実施しています。